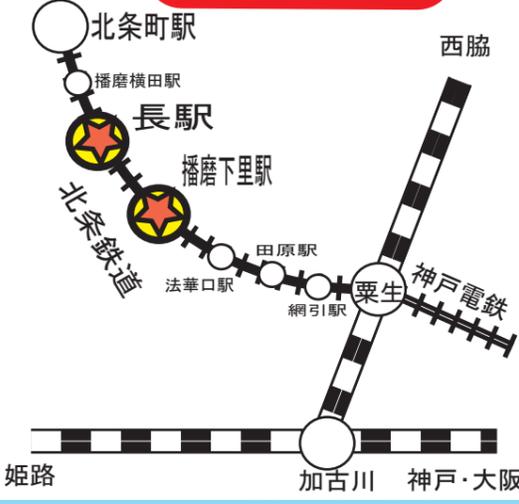


アクセスマップ

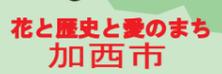


またまた 北条鉄道沿線散策マップ 第3弾

長駅・播磨下里駅周辺

名所・旧跡60連発

0m 200m 400m 600m 800m 1000m



花と歴史と愛のまち 加西市

加西市観光まちづくり協会 兵庫県加西市北条町横尾1000
Tel 0790-42-8823

<div><div><div></div><div>[1]</div></div></div>

阿弥陀三尊石棺仏

長駅から西へ向かう道路の北側の畑の中に2基の石棺があります。高室石と思われる底石で、右は冴形石棺の蓋石です。左の石棺には、阿弥陀三尊が種子で墨書され、右の石棺には種子らしきものが見えますが判読できません。石棺材に種子を墨書する方法は、市内ではこの一例だけで、全国的にも珍しく貴重な石棺仏です。

 [11] |長石探石場

北条鉄道沿線から西を眺めると白い断崖のそそり立つ山が見えます。長石の採石場です。長石は加工に適した凝灰岩で、古墳時代から採掘が行われ、古墳の石棺や石仏、五輪塔など多くの石造品が作られ、高砂の竜山石、当市の高室石等とともに播磨地方に花開いた石造文化を生み出しました。今も主に建設資材用として採石が続いています。

 [21] |カ石

小野寺十内親子の墓の前の桜の木の下に転がっている丸い石です。カ石とは、お寺や神社のお祭りなどの際、村人が力自慢を競うために使用した石のことです。当町では、戦後間もない頃まで力比べが行われていたそうです。石に重量は刻んでありませんが、25〜30貫目(94〜113kg)ぐらいでしょうか。

 [31] |目の病気を治すお地藏さん

田んぼの畦に立っています。石室の中に赤茶けた小さな石版に仏を彫刻しています。塵耗が激しく詳細ははっきりしませんが、錫杖を両手で持ち、蓮華座に坐る地藏菩薩のようです。石室には、施主41歳女と刻んてありますが、石仏の造立者かどうかは不明です。地元では、昔から目の病気を治す仏さまと言われていました。

 [41] |古法華石棺

アトリエ館前の坂道の石垣に2基の石棺がもたれかけてあります。2基とも冴形石棺の棺身の底部だと思われます。四辺に幅12〜15cm、高さ2〜5cmの側辺部と思われる立ち上がりがあるため、割り抜き型石棺の可能性がありますが、割り抜き型石棺は、隣接する臨海部には多く見られますが、当市では数例しか確認されておらず珍しいものです。

 [51] |中山町大歳神社

祭神は忍穂耳命で、本殿は銅葺き、一間社流造、幣殿は瓦葺きの妻入り、拝殿は3間×2間の瓦葺きです。拝殿の格天井や虹梁、屋根破風の狐格子、本殿の脇障子の彫刻など見事な造りです。社殿や境内もきれいに清掃がなされており、地域の人々の信仰の深さを感じることが出来ます。

 [61] |北条鉄道＼＼

北条鉄道は、加西市の田園地帯を走る小さな鉄道です。小さい田園鉄道とも呼ばれています。全長13.6kmを個性ある8つの駅で結んでいます。昭和60年4月旧国鉄から業務を引き継ぎ、第3セクターとして生まれ変わりました。年間約30万人を運び、加西市の市民の足として親しまれています。

| [2] |
一石二体地藏石仏

【1】の阿弥陀三尊石棺仏のすぐ西側の桜の木の下にあります。社殿は昭和40年の台風で倒壊したため、近代的な社に建て替えられています。彩色された2体の神像が幣殿の両脇に位置し、珍しい配置です。毎年2月には厄神祭が催され、両月(わち)の厄神さんとして多くの人で賑わいます。

 [12] |両月町八幡神社

善坊池のほとりの小山という山の山頂にあります。社殿は昭和40年の台風で倒壊したため、近代的な社に建て替えられています。彩色された2体の神像が幣殿の両脇に位置し、珍しい配置です。毎年2月には厄神祭が催され、両月(わち)の厄神さんとして多くの人で賑わいます。

 [22] |究極の異形石仏

カ石の南側の山裾にある数基の筆子塚の西隣に六地藏石仏があります。この六地藏には、首しか刻まれておらず極めて特異なものです。仏頭として刻まれたのか、衣類を着せることを前提としたのか、未完成なのかまったく理由が判りません。異形石仏が多いこの当市においても一つの極をなす異形石仏です。

 [32] |名稱寺

当寺は、元禄8年(1695)に後藤加門という人が道場として創立し、宝暦6年(1756)に寺号を受けたと伝えられています。浄土真宗のお寺らしく本堂の前には、親賢上人像があります。ご本尊は阿弥陀如来で、両脇に親賢上人と蓮如上人が、それぞれ立派な宮殿の中に安置されています。

 [42] |古法華石仏

古法華石仏は、約1300年前の白鳳時代に造られた日本最古の石仏です。中央に如来像、両脇には菩薩像を浮き彫りにしています。残念ながら火災にあったらしく、石仏部の多くは剥落しています。割り抜き型石棺や中尊の椅子の装飾、獅子などは他に類例を見ないほどの精巧さで作られています。拝観は事前連絡必要。拝観料200円。国重文指定。

 [52] |八坂神社

大歳神社の西隣にある小さな社です。八坂神社は、「祇園さん」として親しまれています。平安時代の夏、京の都に疫病が流行した時、祇園社の神を祀り祈願したところ、たちまち平癒したため、以後夏の災いから人々を守る神として絶大な信仰を受けるようになりました。京都では、その名残として今も毎年祇園祭が盛大に開催されています。

 [62] |長駅

1914年(大正4年)3月3日播州鉄道(北条鉄道の前身)粟生-北条線が開通すると同時に開業しました。長と言えば石山、そして長石が有名ですが、採石が盛んだった頃、切り出された石が貨物列車で運ばれて行ったそうです。

| [3] |
加西市最後の石道標？

長駅から西進した交差点にあります。櫛型の小さな石の道標です。上部には地藏坐像、下部には、「右長塚、左北条」の文字を刻んでいます。昭和31年1月に造られており、享保13年(1728)から当市に330基余り設置された石道標の最後となるものです。さすがにこの頃となると石道標を頼りに旅をする人はいなくなっただろうです。

 [13] |両月町稲荷神社

八幡神社の隣にある稲荷神社です。社の前には15基の赤い鳥居が寄進されています。この稲荷社は、元は村中にあり、中世当地を治めた善防山城主赤松則繁が勧請し、深く信仰したと伝えられています。社前からは則繁が居城とした善防の山々を見渡すことが出来ます。

 [23] |御大典記念碑

長駅南の畑の中に自然石を利用した記念碑が建っています。地元村が昭和天皇の即位を祝し、道路改修を竣工した記念に建立したもののようです。また、【21】の力石の横の桜の木は、平成天皇のご成婚を記念して植樹されたものと言われています。ともに当時の時代というのを感じさせるものもです。

 [33] |戸田井町大歳神社

寛政年間(建立)の鳥居を抜けると隨身門があります。横壁が白漆喰でどこか古風です。中には立派な神像が納めてあります。本殿は近代的な社殿となっています。隨身門の鬼瓦は、天明2年(1782)に大古瀬兵衛により作られたものです。大古瀬氏は姫路から当地に移ってきた瓦師で、江戸後期、当地の多くの神社仏閣の瓦を仕上げた名工です。

 [43] |吊り橋

自然公園東進入路に、高さ約15mのV字型の切通しがあり、その上に幅1m、長さ約20mの吊り橋が架かっています。人が通ると結構揺れるためスリル満点です。吊り橋を北へ渡った所の橋の下約5mの断壁に50cmぐらいの小さな磨崖仏が彫ってあります。中世後期に製作されたと思われる地藏坐像です。よく見ないとわかりませんので、よく探してみてください。

 [53] |中山苦勞堂

山裾の田畑の中にある石祀です。昔、京の都から一人のお姫様がお供の侍とともに落ちのびてきましたが、旅の疲れと気苦労により、この地に倒れ亡くなってしまいました。その遺骸を葬り塚としたのがこの苦勞堂のことです。そのお供の侍は、その後当地に住み着き、代々この苦勞堂を守り続けてきたと伝えています。また、昔からイボとりに靈験があると信仰を受けています。

 [63] |播磨下里駅

播州鉄道開業から遅れること2年、1916年8月に設置されました。設置当時の駅名は「播鉄王子駅」で、唯一駅名が変更された駅です。今でも、お年より方の中には、「王子駅」と呼ばれる方もいらっしゃいます。

| [4] |
復活した長石道標

【3】のつづき、と思いきや、【3】の道標の隣に真新しい石道標があります。石道標の宝庫と言われる当市が、古くから道標に使われてきた長石を利用し、現在の道標として復活させました。平成14年にこの古法華自然公園周辺、15年に綱引の周遍寺周辺に設置しました。これからも年次計画で整備していきます。道標に導かれるハイキングはいかがですか。

 [14] |善坊池遺跡

善坊池の中にある「水天さん」とよばれている小島の周辺に広がる遺跡です。普段は水面下にあります。1994年に確認調査が行われ、旧石器、縄文時代の石鏃やサヌカイト、チャート、鎌倉時代の住居跡や須恵器、土師器などが見つかります。加西市に人が住み始めたのが、旧石器時代(約1万年前)まで遡ることを証明する貴重な遺跡です。

 [24] |大村町若一王子神社

大村町公民館の隣に、楠木の太木に守られるようにあります。祭神は天照皇大神です。現在の社殿は明治32年に建てられ、平成11年に屋根の葺き替え工事が行われています。拝殿に奉納された大相撲の番付表が目を引きます。また社殿屋根の棟先に付けられた七福神と思われる瓦も注目です。

 [34] |王子神社

祭神は天照皇大神、素戔鳴命、火産靈神で、創祀以来千年以上の歴史を持つと言われています。毎年4月に奉納される獅子舞は市の民俗文化財の指定を受けており貴重です。また、拝殿中央梁上の獅噛という彫刻は珍しい、迫力満点です。神社名がそのまま王子町という町名になっており、当神社と地域との深い結びつきを表しています。

 [44] |NHK大河ドラマ「武蔵」ロケ地

平成15年2月4日自然公園の吊り橋を渡ったところの尾根において、平成15年NHK大河ドラマ「武蔵」の撮影ロケが行われました。武蔵役の市川海老蔵(当時新之助)外約50人のスタッフにより、武蔵が巨獣の山々を歩く場面が撮影されました。アトリエ館の東側には撮影を記念した石碑が建っています。

 [54] |妙厳寺

その昔行基菩薩が阿弥陀像を刻み小堂に安置したことに始まると伝えられています。手入れされた白砂の庭は美しく、屋根の葺き替え時に降ろされた宝珠露盤や大きな鬼瓦などを見る事が出来ます。また、鐘堂の穀々しい彫刻は見事です。山門前の石垣や掘などは、どこか城郭の雰囲気さえ漂っているかのようです。

 [64] |妙厳寺境界石

妙厳寺山門前の石段の右側にあります。冴形石棺の内側に「不許入葦酒」と彫り込んでいます。ここから先は、ニンニクと酒の持込みを許さないと示した境界石と呼ばれているものです。桃山〜江戸時代初期の製作と言われています。境界石は禪宗のお寺の門前などでよく見かけますが、石棺を利用している例は稀です。

| [5] |
西長町大歳神社

5〜6月に訪れるとワゼキショウが境内一面に咲く美しい神社です。南面する石鳥居には建立年として「安政四丁巳星・(1857)の文字が刻まれています。年を表す一字に「星」の字が使われ、珍しい表記となっています。星夜が年や月日を計測する対象として重要な役割を果たしていたことを物語る一字です。

 [15] |善坊池改修記念モニュメント

善坊池の改修記念碑のとなりにあります。幅、奥行き約45cm、高さ約2mを超える石柱で、1本は立っており、2本は地表面に埋まっています。この石は、かつてこの池の樋として利用されていたもので、これだけ立派な石樋はめったにありません。永きにわたる樋としての役割を終え、今度はモニュメントとして大池を見守り続けています。

 [25] |大村古墳

大池に至る農道脇にこのころ古墳時代後期の古墳です。石室は横穴式で、全長約9m、玄室は、幅1.8m、長さ4m、羨道部は幅1.3m、長さ5mで、敷石、側石、巨大な天井石など保存状態は良好で、石室を内外から観察できる貴重な古墳です。墳丘土が採土され石室の多くが露呈しているため、加西の石舞台とも言われています。

 [35] |戸田井町薬師堂

広い田畑の中にお堂があります。本尊は薬師如来です。境内には石造の五重の塔があり、塔身を深く彫りくぼめ阿弥陀坐像を彫刻しています。その塔の前に、以前本堂の屋根に乗っていたと思われる2体の唐獅子瓦があります。嘉永4年(1851)に製作されたものですが、唐獅子の表情がとても愛嬌があります。

 [45] |笠松山展望台

標高244mの笠松山の山頂にある展望台です。アトリエ館からは、わずか15分ぐらいで登ることが出来ますが、360°の大パノラマを満喫することが出来ます。これだけ短時間で登れ、眺望の良い展望台も珍しいのではありません。展望台からは、東屋や吊り橋、善防山、ダム湖、熊野神社等と遊歩道で結ばれています。

 [55] |妙厳寺境界石

妙厳寺山門前の石段の右側にあります。冴形石棺の内側に「不許入葦酒」と彫り込んでいます。ここから先は、ニンニクと酒の持込みを許さないと示した境界石と呼ばれているものです。桃山〜江戸時代初期の製作と言われています。境界石は禪宗のお寺の門前などでよく見かけますが、石棺を利用している例は稀です。

 [65] |熊野小道

権現山山頂にある熊野神社へと続く参道です。登山道入口の石灯笼より100m程の所に、寛政6年(1794)建立の鳥居があります。鳥居前の石段は、1石の自然石に18段の階段を刻んだもので、あっぱれです。そこから熊野神社まで20分ほどの参道ですが、苔むした石が散在し、熊野古道ならぬ熊野小道といった趣きです。

| [6] |
イブキの大木

西長町公会堂の前に大きなイブキの大木があります。樹高22m、幹周3.8mの大木です。なぜか幹が大きく傾き、途中で切断され、そこから真上に枝が伸びているため「J」の字型をしています。イブキ独特の幹のねじれや、樹皮が枯れ木質が白く露呈するシャリなどが見られ、大木の風格を漂わせています。平成9年に市のふるさとの樹に認定されています。

 [16] |両月町地藏尊

石室に入っていますが、柱と屋根が長石、側壁と前面梁が木製という特殊な構造です。右に地藏立像と坐像、中央に地藏立像を配置しています。中央の地藏立像は享保18年(1733)に念仏講中により造されたもので、左手に宝珠、右手に開花蓮華らしきものを持っています。蓮華花を持つ地藏は全国的にも稀です。

 [26] |勢至大菩薩塔

下里川へとつづく細い道路の脇に、「南無勢至大菩薩塔」と刻んだ石塔があります。文化12年(1815)の造立です。勢至菩薩は知恵をあらわす仏で、一般的には阿弥陀三尊の脇侍仏として作られます。当塔のように独尊の場合は二十三夜月待講の尊主として作られる場合が多いのですが、現在は地元の信仰もなく、何のために造立されたか不明です。

 [36] |善防中学校周辺公認ランニングコース

善防中学校を中心に、善坊池と皿池を8の字に回るランニングコースが設定されています。皿池1周約1.2km、善坊池1周約1.5kmで、両池の美しい景色を楽しみながら走ることが出来ます。日本陸連の第5種競技場のハーマラスコースとして認定を受けており、駅伝大会やロードレースなど数多くの大会が開催されています。

 [46] |善防山

善防山は標高251mの低山ですが、手軽に岩山登山の雰囲気味わうことができる山としてハイカーに人気があります。山頂へとつづく尾根筋は眺望も良く、特に東尾根からは播州平野を一望することができ、天気の良い日には遠く明石海峡大橋や淡路島などを望むことが出来ます。

 [56] |熊野神社

権現山山頂にある熊野神社へと続く参道です。登山道入口の石灯笼より100m程の所に、寛政6年(1794)建立の鳥居があります。鳥居前の石段は、1石の自然石に18段の階段を刻んだもので、あっぱれです。そこから熊野神社まで20分ほどの参道ですが、苔むした石が散在し、熊野古道ならぬ熊野小道といった趣きです。

 [66] |熊野神社

標高201mの権現山山頂に南面して建っています。祭神は伊邪那美神です。拝殿の礎石や狛犬、手水鉢や灯笼など多くの加工石材が使われていますが、このような山頂に運び上げたのは、厚い信仰によるものでしょうか。社殿裏には、熊野神社古墳があり、石室が露出しています。加西市でもっとも高い所に位置する古墳です。

| [8] |
西長町すこやか広場

この広場は、代々庄屋、村長を務めた藤原総本家屋敷跡で、相続人が地域の為にと寄贈された土地を町民広場として活用したものです。昭和57年に完成しました。広場の奥には、その徳を称えた記念碑が建っています。碑の隣にある灯笼の基礎石は亀の形をしておりユニークです。

 [18] |両月町塞(さい)の神石祠

両月町公会堂の東にある小さな石祠です。塞の神(さいのかみ)の定義は地域により多様で、むずかしいのですが、塞神(ふさぐかみ)の字のごとく、外災から村を守る神様として信仰を受けるのが一般的ですが、地元では、年越しの神様と言われており、歳神の字をあて、一年を無事におくれるように祈る神様といった方が適当かもしれません。

 [28] |多聞寺

曹洞宗のお寺です。大阪夏の陣で憤死した猛将後藤又兵衛親子を弔うために、又兵衛の一周忌にあたる元和2年(1616)に上棟・開山したと伝ええています。境内の中央には、樹齢約160年の山桃の太木がそびえ、新築された本殿は壮大で、正面の虹梁やその上の竜の彫刻、大棟の獅子口などは思わずため息が出るほどです。

 [38] |古法華自然公園

面積約150haの広大な自然公園です。公園内には、石彫アトリエ館や古法華石仏、吊り橋、善防山城址、キャンプ場、フィールドアスレチック、笠松山展望台、ダム湖など見所も豊富で、それらを結ぶように遊歩道が整備されています。また、春は桜や山ツツジなどの花々や新緑が美しく、秋は紅葉の名所として多くの人が訪れます。

 [48] |女岳

古法華自然公園のダム湖堤防すぐ北西の小高い山は、形が女性の体の一部に似ているために女岳と呼ばれています。昔は多くの人が、妊娠や安産、婦人病の治癒などを祈願したようです。さすがに医療の発達した今日では、信仰する人や知る人も少なくなりました。ダム湖をはさみ反対側には男岳もあるそうです。所在もよくわかりません。

 [58] |東刈坂町お稲荷さん

集落の東側の田んぼの中にある塚に、赤い鳥居と2つの石祠を建てお稲荷さんを祀っています。また、この塚は刈坂古墳とよばれている古墳で、墳丘径約20m、高さ約3mの古墳時代後期の古墳です。石室の一部と思われる石が露呈しています。1957年の発掘調査により、須恵器、土師器、玉類、鉄刀、鉄鏃、馬具などが見つかっています。

 [68] |長者堂

昔、沈む夕日も再び昇させたといわれる朝日長者という長者の屋敷跡と伝わる所に、現在小さなお堂が建っています。お堂の中には、彩色された木製の地藏坐像が祀ってあります。特に舟形光背には美しい色が残っています。昔から村が困窮した時は、境内を掘りおこすようにの言い伝えがあり、もしかしたら宝物が眠っているかもしれません…。

| [9] |
西長町妙見堂

県道より、「是より2丁 妙見堂道」と刻まれた道標に従って山道を登ると、中腹にお堂があります。堂の中には真新しい祭壇があり、その中に木製の宮殿が納めであるようです。堂の基壇部の石垣や石段などには美しいミ跡のこり、さすがです。鳥のさえずりや採石場の作業音が耳に心地よい山の中のお堂です。

 [19] |東長町大歳神社

祭神は国常立神で、由緒は不明ですが、社殿は昭和9年に建て替えられています。拝殿前の狛犬は、支那事変出征の無事帰還を感謝し奉納されたものです。境内の片隅にはお百度石があります。息子の出征を見送った父母たちは、どんなに強く息子の無事を願い、幾度神に祈ったことでしょうか。小さな石造物が語りかけてくれるようです。

 [29] |多聞寺三界万霊塔

多聞寺山門を入り、すぐ右に北面して立っています。古墳時代後期の冴形石棺の蓋石の内側に「三界万霊」の文字を陰刻しています。文字のタッチに重厚感がなく、江戸時代初期頃の作と言われています。当市では、石棺部材を利用した石造物は、鎌倉〜南北朝時代の物が多く、江戸時代の物は貴重と言えます。

 [39] |石彫アトリエ館

古法華自然公園の中にある石彫を体験できる施設です。費用は石材費13,000円で、施設や道具の使用は無料です。軟らかい石を使用しているため初心者でも手軽に彫ることが出来ます。少しづつ長期間をかけて彫ることも可能です。完成した作品は、公園内に設置していただくことになります。あなたもチャレンジしてみませんか。

 [49] |古法華キャンプ場

自然公園入口からすぐのところにキャンプ場が整備されています。テントサイトやテーブル、パーベキューサイトなどが設けてあります。付近には芝生広場やアスレチック遊具、小川などもあり、春から秋にかけて多くの利用客で賑わっています。利用料は無料ですが、事前に加西市都市施設公社への申し込みが必要です。

 [59] |長者堂

昔、沈む夕日も再び昇させたといわれる朝日長者という長者の屋敷跡と伝わる所に、現在小さなお堂が建っています。お堂の中には、彩色された木製の地藏坐像が祀ってあります。特に舟形光背には美しい色が残っています。昔から村が困窮した時は、境内を掘りおこすようにの言い伝えがあり、もしかしたら宝物が眠っているかもしれません…。

 [69] |大塚古墳

古墳時代後期の古墳です。所在する字名や隣接する池の名に大塚の名を残しており、昔はかなり大きな古墳であったと思われますが、現在は墳丘径約10mで大半の封土は失われています。玄室は露呈し、巨大な天井石が落ち込んでいます。奥壁の前には石櫓がありますが、このような櫓があるのは市内では当古墳一例だけです。(雑草が多く、良く見学できるのは冬季のみ)

| [10] |
長の大仏

長の採石場を背に大仏が立っています。身長4.3m、全高9.5mの大仏で、地元では長の大仏と呼ばれています。花崗岩で造られ、来迎印を結ぶ阿弥陀如来像で、放射頭光を放ち反花をもつ蓮華座上に立っています。平成11年に地元の方より寄贈されました。石の町にふさわしい大仏です。

 [20] |赤穂義士小野寺十内親子の墓

地藏堂の隣にある石碑が、赤穂義士小野寺十内と息子幸右衛門の墓です。十内は刃傷事件の際には、京都留守居役で、凶報に接しいち早く義盟に加わり、一党の長老格として終始大石内蔵助を支えました。幸右衛門も父とともに討ち入りに参加しました。毎年12月14日には、隣町の多聞寺では、2人の法要が営まれ、2人の義勇を今も称えています。

 [30] |多聞寺西国三十三番札所巡礼供養塔

多聞寺本堂西の大きな羅漢像の隣にあります。櫛形石碑に「奉西国三十三所巡礼供養塔」とあります。西国観音霊堂三十三番札所を無事巡礼し終えたことを感謝する石碑で、正徳5年(1715)に造立されています。播磨地方で巡拝供養塔が建立しはじめるのは18世紀初頃からと言われており、当碑はもっとも初期のものと言えます。

 [40] |ユニークな石仏たち

石彫アトリエ館で製作された石仏が、アトリエ館周辺に約250体並んでいます。釈迦涅槃像や七福神といった本格的なものから、素人の作品らしい喜怒哀楽の表情豊かな石像や、家族や友人の顔を彫ったもの、小便小僧やテレビキャラクターまで、製作者一人ひとりの思いのこもった個性豊かな石仏たちです。

 [50] |大柳町地藏堂

堂内には三体の地藏菩薩を安置しています。大きな地藏像の台石には、施主念仏講中、右の石仏には、安政4年(1857)の銘があります。堂周辺には3つの石室に石仏が集められ、左端の石室には、弘法大師、不動明王、聖観音菩薩、その右隣の石室に、弘法大師、善光寺阿弥陀三尊、右端の石室は、四国霊場19番札所立江寺の地藏菩薩と弘法大師像でしょうか。

 [60] |大塚古墳

古墳時代後期の古墳です。所在する字名や隣接する池の名に大塚の名を残しており、昔はかなり大きな古墳であったと思われますが、現在は墳丘径約10mで大半の封土は失われています。玄室は露呈し、巨大な天井石が落ち込んでいます。奥壁の前には石櫓がありますが、このような櫓があるのは市内では当古墳一例だけです。(雑草が多く、良く見学できるのは冬季のみ)